

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102942
法人名	長崎貿易産業株式会社
事業所名	長崎貿易産業株式会社 グループホーム華の苑
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市中里1188-1 (電 話) 095-839-1194

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成20年3月1日

【情報提供票より】(平成19年 4月 3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	9人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.3人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨一部木造	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000～42,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(30,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数		9名	男性 2名		女性 7名
要介護1		2名	要介護2		0名
要介護3		4名	要介護4		3名
要介護5		0名	要支援2		0名
年齢	平均	87.44歳	最低	71歳	最高 98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	和仁会病院、森内科医院、たら歯科医院、清原龍内科医院、大坪クリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年、他の施設に入所中の母親の面会に行く度に“自分で介護したい”という想いが強くなり、自宅を改装してホーム開設に至った。正面は道路に向かって地域に開かれ、一方は石材店作業所に通じ他方は山に近く、川や木々の緑や紅葉、季節によってはホタルが飛び交い、タヌキ・サルなどの小動物も山から下りてきて周囲を賑わしている。平屋にも二階建てにも見える長崎の坂を活用した造りの建物で、門扉から玄関に続く石段の脇には家業の石材店ならではの石燈籠やお稲荷さんを祀ったり、石段には手すりが設置してあり昇降が丁度良いリハビリの場にもなっている。ホーム内は死角を出来るだけでなくすよう壁をくり抜く等の工夫が凝らされ、エレベーターで階下に降りたホールにピアノが据えられている。職員はホーム開設の経緯を理解し、その思いから離れず普通の生活の場としてお互いを助け合い、思いやる気持ちで協力し合って仲の良い家族のような時を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①介護計画作成時、遠方の方には計画書を郵送する等家族の意見を反映できるよう取り組んでいる。②市の栄養士への相談や定期的な献立チェック、個別の食形態・必要量の盛り付け等工夫している。③時間帯・回数等ある程度決めているが入浴日の希望や好み等柔軟に対応し、気持ち良く入浴して頂けるよう工夫している。④家族との外出支援を行ったり、出来るだけ外出の機会を捉え要望に応じ、ホーム周囲の散歩や個別の外出など柔軟な対応を行っている。
重点項目①	代表は職員の自主性を重んじており、実務に関しては会議で事務長が説明し、職員全員からの取り組みたい事や意見をケアマネージャーが整理し事務長が補足しまとめた。既に取り組んでいる事に関しても、もっと出来るのではないかと強い思いが強く、改善課題についても前向きに話し合い取り組むことで実現・質の向上につながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年秋にホームの成り立ちや職員紹介、ミニコンサート等アットホームな雰囲気第1回目を開催し、外部評価の意義等についての説明と共に、前回の評価結果・自己評価の結果の報告を行い第2回目の開催を11月に予定している。推進会議に対するアンケート実施の提案、取り組みに関するねぎらいの言葉やご意見を頂いた。市窓口担当者や推進会議出席者は同じ方ではないが、ホームより定期的に家族通信を持って訪問したり、担当の方に電話をする等相談したりアドバイスを頂いている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の知りたい事に違いがある事を意識しながら、会話の中で家族の思いを推し量り個別に対応している。苑での行事や生活場面の写真を多く取り入れた家族通信等と共に担当者の手紙を添え定期報告を行っている。職員の異動は運営推進会議や家族の来訪時の他電話でお伝えしたりしている。御意見箱の設置や家族通信に苦情・相談の連絡先・担当者名を明記し、ご意見等を頂いた時は記録を回覧したり会議で報告・対応策等話し合っている。更に家族会の設置を呼びかけ活発な御意見を頂けるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設当初地域の方々へ挨拶回りを行い、代表の夫の両親の自宅であった事や自治会の会・副会長との付き合いが長い事もあり、ホームを理解して地域全体に受け入れて貰っている。自治会への加入や回覧板、利用者と職員が一緒に地域清掃や草取り、自治会の夏祭り等に参加している。職員の伝手を活用しミニコンサートの開催、敬老会・クリスマス会・消防訓練等ホームを開放している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人を主体とした日々の暮らしやケアの在り方、ゆっくりと関わる時間と“母親を介護したい”という思いを込めて、H.14年9月ホーム長の両親の家を改築し開設する際にホーム長が1人で作った。家庭的で住み慣れた地域の環境に似た場所、その人の思いが叶えられ安心した暮らしを支援するという思いが込められている。開設時は地域の方の理解に温度差はあったものの繰り返し声かけをしたり、ホーム長の夫の両親の自宅だった事もあり地域の方の支援は好意的で理解も得られてきている。	○	日々の中で実践されているものの、古来からの習慣が根付いている地域らしさや、地域で暮らししていく事を新しく理念に盛り込んでいき、地域密着型サービスの視点で理念を見直していきたいと考えており今後の取り組みに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長・管理者が会議や日々の現場で理念を題材にケアに結びつけたりしていたが、1年前より理念に通じるものがある小冊子を用い、職員が良かったと思う所を読み感想を言って貰っている。理念を声に出して読む事で頭だけでなく体で理解できると、職員自ら考え会議前に唱和していく事を決めた。職員は出社時等「ただいま、おかえり」と自然な言葉で家庭同様の挨拶になっており、常に入居者の立場に立って声かけを行う等日々実践されている。	○	ケアに携わる時など常に理念を念頭に置いて関わり、今後一人ひとりが自然に言葉の中に現れたり皆で唱和を続けていく等、更に日々の業務の中で心の拠り所となるよう理解を深めていかれることに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設当初挨拶回りをを行い、ホーム長の夫の両親の自宅であった事や自治会の会・副会長との付き合いが長い事もあり、ホームを理解して地域全体に受け入れて貰っている。自治会への加入や回覧板、利用者と職員と一緒に地域清掃や草取り、自治会の夏祭り等に参加している。職員の伝手を活用しミニコンサートの開催、敬老会・クリスマス会・消防訓練等ホームを開放している。	○	職員からも情報収集し現在の入居者が出来る事を探し、参加できる回数・場所を増やしていき今後更に地域との交流が深められることに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の中で事務長より説明を行い自己評価表を全員に配布し、意見を出したり取り組みたい事を書いて貰い、ケアマネジャーが意見を整理した後事務長が補足しまとめた。既に取り組んでいる事に関しても、もっと出来るのではないかなという思いが強く改善課題についても前向きに話し合い、実現に向けて取り組んでおり質の向上につながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の会・副会長、包括支援センター、家族、入居者をメンバーとしホームの成り立ちや職員紹介、ミニコンサート等アットホームな雰囲気の中で昨秋に第1回目を開催した。推進会議に対するアンケート実施について提案があり、取り組みに関するねぎらいの言葉やご意見を頂いた。外部評価についての説明と共に前回の結果・自己評価の結果の報告を行った。第2回目の開催を11月に予定している。	○	自治会の会合にホーム自ら参加し推進会議についてや勉強会等、地域に根差した情報を活かして議題につなげたり、地域の方にも参加して頂けるよう考えている。会議での意見の反映状況やその後の取り組み状況について等見直していく上でも、参加者の意向も確認しながら参加者氏名・発言者氏名等の議事録への記載方法、開催頻度など前向きに検討されることに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	窓口の担当者と推進会議に参加される方は違うが、事務長は定期的に家族通信を持って訪問したり担当の方に電話等している。包括支援センターや市の担当の方に相談しアドバイスを受けて、献立の見直しについては市の栄養士の指導を頂く等、親身になって相談に乗って頂いている。	○	地域の民生委員の方にお会いする機会を持ち信頼関係を築く取り組みや、地域の方の情報を頂いたり推進会議へ参加して頂けるような働きかけをしたいと考えており、今後更なる取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が知りたい内容や頻度に違いがある事を意識し、会話の中で家族の思いを推し量り個別に対応している。苑での生活状況や行事写真を多く取り入れた家族通信と共に往診記録のコピー、レシート・金銭出納簿のコピー、担当者の手紙を添えて定期報告を行っている。職員の異動は運営推進会議で写真入りで紹介したり、家族が来られた時に職員が口頭でお伝えし来訪がない時には電話をしている。今後家族通信に新入職員を写真入りで紹介する等検討・維持していく。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族通信に苦情・相談の連絡先・担当者名を明記し、何かあった時にはノートに記録し回覧したり、会議で報告・対応策等話し合っている。入居者家族と代表が子供を通じた知り合いで家族会の設置を呼びかけ、会議等に積極的に参加されている方に家族会会長を引き受けて頂いている。	○	ホーム行事の後に引き続き家族だけで話し合い、直接言いにくい事も話しやすい場を持つ事や、家族会の設置により会長を通して率直なご意見を頂けるのではないかと考えている。今後更なる充実に向けた取り組みに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動はなく食事会・親睦の場を設けたり、休み等の希望に極力応えホーム長が中心になって悩みや相談に対応する等、離職予防に取り組んでいる。職員交代時は入居者のその時の状況に合わせて説明方法を変えたり、間をとったり他職員がフォローしている。男性職員の入職時は少し離れて何時も傍にいる事から始め、時間をかけてゆっくり馴染んで貰い「男性は頼りになりますね、夜も安心ですね」等雰囲気作りをし、入居者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの役割として各委員会があり、担当者に関連する外部研修には参加して貰い研修費を補助している。研修案内を回覧し希望者が積極的に参加できるよう勤務調整を行い、資料回覧や伝達研修を行うと共に、何か疑問がある時には管理者・主任・ケアマネジャーが中心となりケア会議やその都度技術指導を行っている。資格取得等スキルアップについて個々に声をかけているが育成計画として明文化したものはない。	○	代表の職員を育てたい・研修に積極的に参加して欲しいという思いと、個人のレベルに合わせた目標・目的を明確にし計画・評価を行う事で職員自身、方向性が明確化され自己啓発・向上心に結び付けられる。委員会活動・研修報告をする中で介護力の向上や勉強が必要な項目の決定に繋がり、管理者・主任等の内部講師だけでなく外部講師や担当者を検討し、積極的に取り組まれる事に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表が長崎県グループホーム連絡協議会の元理事である経緯もあり、交流の必要性は痛感している。現在は長崎ブロックの消防担当として事務長が勉強会に出席している。提携医療機関の勉強会への定期的な出席、連絡協議会・交流会に職員も参加させると共に、独自に情報を集めたりホーム長からも見学を勧められ事務長・管理者・主任が訪問し量になっている。	○	ホームの見学や交流等職員皆が行ける機会を作ると共に、他ホームからも来て頂き職員同士の交流が深められるよう今後の取り組みに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や入院先を訪問し生活歴・環境等家族からお聞きしたり、顔馴染みの関係を作るようにしている。入居後は本人が安心できるような言葉かけを心掛け、マンツーマンで対応すると共に、家族の役割として担って頂くケアとして電話したり外出に連れて行って頂く等、家族と話し合い協力を頂きながら早く馴染んで頂けるようにしている。	○	入居前に家族も含め宿泊体験して頂いたり、入居後は個別対応が出来る範囲や内容を提案をする等考えている。又急な入居で生活に馴染めない時には、自宅とホームを往ったり来たりしながら安心して過ごせるように、家族と共に話し合いながら進めていかれることに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	残業の時に菓子を差し入れて頂いたり「お疲れ様、まだ帰らんとね」と気遣いの言葉をかけて頂く等、仕事をしていく上での支えになっている。意識せずに日常生活の場で“ありがとう”と感謝の言葉を伝えたり、昔の歌やお手玉等入居者が知っている事、調理法や切り方等得意な事を学ぶ姿勢を常に職員が持ち、入居者が主役になって活躍できる場をもっと増やしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一つ一つの生活行為についての望みを把握している方と、してない方がいるが夜間の徘徊や不穏が続く時は夜勤職員を増やし、マンツーマンで対応する等職員が声を掛け合い助け合っている。入居者の思いに近づく為に生活歴・生活習慣・趣味等をできる限り把握し、言葉かけや物品を示したり日々の行動を共にし、表情を大事にして思いを汲み取るようにしている。	○	意思疎通が困難な方では意向等十分に把握出来ているとは言えない方もおられ、職員は意識して側に居てゆっくり話す時間を作っているが、ケアに時間がかかる時等難しい時もある。今後更にゆとりある時間を作り、思いや意向の把握に努められることに期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全入居者について地域で暮らすという視点は盛り込まれているが、意向等を反映させる為の話し合いが全ての方と出来ている状況とは言えない。行動障害を表す言葉や専門用語等を避け、やさしい言葉に置き直し本人にとってマイナスにならない様な表現になっている方とそうでない方がいるが、入居者の家族や職員の気づき・意見の反映は出来ており、利用者のかかりつけ医や包括支援センター職員にも相談し計画立案している。	○	介護計画を郵送しそれを基に話し合いはしているが遠方の方と話し合える場の検討や、問題解決型の表現ではなく本人の思いや地域で暮らしていく視点を盛り込む事で、本人・家族にとっても前向きに一緒に話し合える場面作りにつながっていく。センター方式を取り入れていくことを検討中の段階であり、今後更なる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行い状態に変化が生じた時には、家族からのご意見や職員とも協議し計画作成しているが、見直しが間に合わない時もあり設定した時期が来るまで行わない時もあり、計画変更が遅れがちで口頭での伝達になっている事もある。月2回のケア会議で気づいた事や変化があった事等職員より聞き、家族が来られた時に要望などお聞きしている。	○	入院時にはお見舞いに伺って病院より情報収集を行い、事前に暫定の計画を立案したり、状態の変化がある時等は意識して時間を作り、現状に即した計画の見直しをその都度行いたいと考えており今後の取り組みに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご要望によりタバコ屋や花を見に行ったり、連絡調整をし外泊支援を行っている。ホーム内に看護師は居ないが24時間の往診・訪問体制があり、相談したりアドバイスを頂け家族・職員共に安心できる状況である。昼間は訪問看護師の付き添いにより点滴が受けられ、入院をしないで生活が継続できている事もある。必要時には病院を紹介して頂き、入院先の医師・看護師との連携によりスムーズな転院が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族のご要望を聞きながら、協力医療機関や専門性について説明している。半分以上は以前からのかかりつけ医に職員が通院介助を行い、受診結果等変化があった時は速やかに家族に報告している。医師と顔を合わせ直接状態報告をし情報交換等を行う事で、信頼関係作りはスムーズで常に医師との連絡が取れるようにしている。医療機関の所在地や受療の頻度・時間帯によっては家族と行って頂く事があるが、受診結果は把握出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応できる範囲等具体的に定めてはいないが、ターミナルケアを希望する方も多く本人・家族の意向は把握できている。個別に家族・医師・看護師と話し合いを行い終末期の方針を全員で共有し、家族のその時々々の気持ちの変化に配慮しながら、繰り返し話し合い柔軟に対応し悔いが残らないよう家族の気持ちを大切にしている。職員アンケートで自信はないが、疼痛コントロールや医療処置を伴わないターミナルケアは出来ると決め、医師・訪問看護師・職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の行動を察し羞恥心や自尊心に配慮し小さな声を心掛け、排泄誘導しているが大きな声になっている事もある。同姓の方がおられる時に呼び名を使っていた事等があるが、入居者の前で職員間の申し送りをしたり、記憶や思い違いに対して否定的・指導的な言動をしないようにしている。個人情報を書かれた書類等の処理は適切に行われ、不必要に地域の方に入居者や家族の事をお話する事はないが、勉強会の後に個人情報に触れる話が出る事がある。	○	日頃のケアの場面で馴染まれているという思いからレクレーション等、気持ちにゆとりがある時に適切ではない言葉がつい出てしまう事があり、職員同士注意しあったり常に言葉使いや個人情報保護について意識し、プライバシーの確保が徹底されるよう取り組まれる事を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や行動を察し外出や帰りたいという気持ちの時に、ゆっくり話を聞いて話を合わせたり、家族に電話をしたり時間をかけて落ち着いて頂き、散歩をする等安心して頂ける様にしている。生活のリズムがとれるような声かけは行いが、無理強いせず習慣やその日の体調・気分を尊重し本人のペースに合わせ、希望を表現できない時には表情を見て寄り添い側に座っている。体調不良で居室で過ごされている時には細めに様子観察をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物・食べたい物はないか・尋ね献立・おやつに取り入れたり、食材の買い出しや調理の下ごしらえ、食器洗いや片付け、テーブル拭き等出来る事をして頂いている。旬の食材や畑で作った野菜を入居者と共に収穫して調理したり、郷土食や外食・出前を取ったり、職員も一緒に食卓につき入居者と同じ物を食べながら、声をかけ介助しながら一人で食べられるよう支援している。	○	食事に関する一連の作業・料理の手順等ゆっくり時間をかけて待てば役割としてできる事でも、時々職員が手を出して過剰介護になっている部分があり、意識して手を出さずに様子を見て、入居者が力を発揮できるように取り組んでいかれることに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯・回数がある程度決めているが、生活習慣を把握しタイミングを見て声かけし、希望に合わせた柔軟な対応をしている。体調をみながら湯温や順番、シャンプー・石鹸等も好みに合わせたり、個別入浴を基本とし危険がない部分については、浴室を開け脱衣所からの見守りや同姓介助等配慮している。年間行事として菖蒲湯・ゆず湯、温泉に行く等楽しんで頂くための取り組みは行っているが、重度化によりできない状況になってきている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・趣味・習慣や好きな事を本人や家族にお聞きしたり、活き活きされる状況を観察し、個別の役割・楽しみ事を持って頂けるよう支援している。買い物の手伝いやお米とき、茶碗拭きや収納、洗濯物干し・洗濯物たたみ等生活歴やご希望を把握しながら活力を引き出す為に役割として継続して頂いている。	○	時間がない時に職員が手を出し過ぎている場面があり、役割や楽しみ事を持って頂いていない方がおられるが、時間にゆとりを持ち出来るだけ自分で頂く事を意識して、あきらめずに本人の気持ちや力を活かした場面作り、活力を引き出せるよう取り組んでいかれる事に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒に食材の買い出しや受診時に回り道をしてドライブしたり、ホーム周囲や畑や花を見に行く等機会ある毎に個別に外出している。教会へ出掛ける際の送り迎え等生活の継続は出来ているが、地域外からの入居者が多く入居後馴染みになって来た場所や、希望に応じた外出に出来る限り対応している。入居者の散歩時には地域の方からもご挨拶を頂いたり、一人で外出をされる方がおられても、後ろからそっと見守りながら付いて行く等している。	○	農家の方・畑作りをされていた方が多く、土に慣れ親しんで頂く機会や野菜作り、畑への外出を増やしていきたいという気持ちが強く、今後更に積極的に取り組んでいかれる事に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21:00～6:00の防犯上の施錠以外は日常的に利用する玄関等、自由に出入り出来るよう開けている。安全確認の為に職員が作業する場所や立つ位置を調整し声を掛け合ったり、居室出入りが確認できるようセンサーをつけているが、一人で外出されても後ろからそっと付いていったり、近所の方が何かあったら教えて頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・夜間の災害発生を想定し職員・入居者・地域の方々・消防署の協力も頂きながら訓練を行っている。日頃より挨拶に伺いご近所協力隊をお願いしたり、地域の方を含めた連絡網もあり、電話で対応できる状況である。災害に備え懐中電灯・ラジオ・卓上コンロ・ペットボトル・お粥・乾パン・缶詰等備蓄している。	○	自主訓練を含め年2回定期的な訓練の実施を継続し、日頃より地域との協力体制の強化等今後の更なる充実に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前の食生活習慣を把握し味付けを変えたり、代替食品の利用や御飯にかけずに別皿に盛る、嚥下や咀嚼機能に応じてミキサー食にする等の対応をしている。食事量・飲水量の把握・記録を行うと共に、市の栄養士のアドバイスを受けながら、一人ひとりに応じた摂取量に配慮した盛り付けを行っている。	○	職員も一緒に食事を頂く事で1回の摂取量も把握でき、定期的な栄養士からのアドバイスに役立てられる。栄養バランスに配慮した献立やカロリー計算の実施等、今後の更なる取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の重度化に対応し手摺やエレベーターの設置、滑り止めマットや風呂の段差解消、空調管理を細めに行うだけでなく、簡易トイレにバイオの脱臭剤を使用したり、玄関先で香を焚く等快適な生活空間に配慮している。ホーム周囲の自然が奏でる川のせせらぎ等を大切にすると共に、手作業で季節に応じたカレンダーや張り紙を行い、季節の移ろいが感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・仏壇・鏡台・テレビ・裁縫物品や本人・家族とも相談しながら、それがあつた事で本人が安心できるような置物を置いたり、愛用の蒲団を持ってきて頂く等居心地良く過ごせるよう工夫している。元々の造りを活かした雪見障子から外の景色が見られ、生活環境が維持できるようにしている。		